

要領様式第2号

出張報告届

令和6年 4月19日

吹田市議会議長 様

会派名 参政党議員団

代表者氏名 中西勇太

出張者氏名 久保直子

下記のとおり出張したので届け出ます。



記

出張先	東京都渋谷区神宮前1丁目11-11 グリーンファンタジア7階
期間	令和6年4月19日から4月19日まで 1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	

テーマ

「マニフェスト大賞最優秀受賞者が語る、地方議員の政策実現に必要なこと」

講師 龍円あいり
東京都議会議員（渋谷区）

日時 令和6年4月19日（金）

開催地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1丁目11-11 グリーンファンタジア7階

1, はじめに（目的）

政策実現について学び、吹田市政に活かす

2, インクルーシブ社会を目指して

龍円さんは、ダウン症がある小学生の子供を育てるシングルマザー。スウェーデンに生まれ日本で育った。留学先の米国でダウン症がある息子を出産したが、アメリカで感じたインクルージョンは、

1, マイノリティを一切感じなかった

（日本人・英語を母国語としない・留学生・事実婚・スペシャルニーズ）

2, 親子で早期療育の充実した環境が整えられていた

（0歳から様々な療育を受けられた）

3, 保護者の為の時間が設けられていた

（心の余裕と安らぎと仲間とのつながり）

4, 行政・教育・療育・医療の連携

（障害のある子に無料で適正な教育を受けさせる法律）

しかし、帰国後、日本で大幅に遅れている事へ違和感を感じ、「日本の障害児者の環境をより良くしたい」と強く思うようになる。そして、啓発活動を開始する。2017年東京都議会議員に初当選し、「誰もが自分らしく輝きながら参加していると実感が持てるインクルーシブな社会の実現」を目指して政策に取り組み現在に至る。

3, 議員としてのポジティブ要素

「当事者としての活動・特化した政策」…多くの当事者とのつながりもあるし、当事者の代弁者として説得力がある

「インクルーシブ社会の実現」という専門分野に特化して質問・政策提案…その分野についての発言は信用される

「多角的な視点から分析比較できる」…新しい解決策、考え方や提案・独自性がある

4、議員としてのマイナス要素をポジ変換

「政策が専門的かつニッチなので票にはなりにくい」

→意義がある事なので地域の方に知ってもらえるよう力作の政策チラシを配布したり、ブログで解説の記事を書いたりしている。

「政策が地域と関わりが少なくなりがち」

→地域×政策を意識して進めている

・インクルーシブアート・コースクリニック

「海外の事例等と比較することも多く、カタカナが多くなりがちで、理解されにくい」

→アナウンス記者時代のスキルを活かして「わかりやすく」し、しつこく繰り返し質問する事で啓発活動

5、日本がインクルーシブでない根本的な要素と解決策

「人は皆同じ」が前提であり、「普通」に価値がある事から「人は皆違う」が前提であり、「違い」に価値を。インクルーシブな社会実現のため、「人は全員違う」を前提にして、すべての違いのある人達が参画できる社会の在り方を追求する。

6、みんなが仲間になるインクルーシブ公園

東京都の反応…「公園で遊べない子がいます」

・言われるまで、公園で遊べていない子がいる事に気が付かなかった。

・東京都に、公園で遊べないから改善してほしいという声が届いたこともなかった

「みんなと一緒に遊びたいけど、車椅子だから」

「子供の介助につきっきりで気が休まらない」

「周りの視線が気になって行き辛い」

「医療的ケアがあるので道具が使えない」

「安全に遊ばせるのが難しい」

「他の子に迷惑かけてしまうかもしれない」

⇒公園に「居ない」のでその存在に気が付きにくい

○インクルーシブ公園・・・障がいのある子やない子、子供からシニアまで多様な全ての人と一緒に交じり合いながら楽しく快適に遊び過ごせる工夫や配慮がある公園

・都立府中の森公園「にじいろひろば」 ・恵比寿南二公園

7、インクルーシブ公園はコミュニティ作りのプロセスが大事

・多様な参加者によるワークショップの開催

・障害のある子ない子と家族・近隣住民・行政の公園担当

- ・行政の教育や福祉の担当・地域の療育や保育施設職員・遊具メーカー
- ・造園業者・設計業者等

「どんな合理的配慮があるといいだろう？」

「どんな遊びや活動があるといいだろう？」

「どんなコミュニティが育つ公園だろう？」

ハード面・ソフト面共に考える

8. コミュニティを育てる

ワークショップ（調査設計）

↓

公園完成

↓

ボランティア・活動・プログラム・イベント（管理・運営）

声を行政に伝えていくその過程で仲間を「巻き込んでいく」署名活動・ママ主体のワークショップ・子供主体のワークショップ・アイデアを取り入れてもらう

- ・東京都のガイドラインを作成
- ・東京都の補助金創設
- ・先行事例を参考に（みんなの公園プロジェクト・福岡市インクルーシブな子ども広場整備指針）

9. おわりに（感想）

インクルーシブ公園では、違いがある子供が混じって遊ぶことで、違いを自然と理解し、一緒に遊び育つ方法を身につけられる。また、付き添っている親や家族同士、公園に来ている地域の人たちの間にも相互理解とつながりが生まれる。それは、防災やいざという時に助け合える共助の力を育む所が良いと思う。公園づくりのプロセスに重きを置き、当事者のみならず様々な立場の人との「つながり」に視点を置く所は、とても重要なポイントだと思う。

声を行政に伝えていくその過程で仲間を「巻き込んでいく」署名活動・ママ主体のワークショップ・子供主体のワークショップ等を行いアイデアを取り入れてもらったのも素晴らしいが、政策チラシを作成し、地道に住民への理解を広げる所が参考になった。

参政党 吹田市議会議員 久保直子